男女共同参画情報紙

ぱれっと

2013
vol. 33

平成 11 年に男女共同参画社会基本法が施行されてから 10 年以上が経ちました。

性別に関わらず、その人の個性や能力が発揮できる。一人ひとりが対等な立場で、社会のあらゆる分野で活躍でき、お互いを尊重して認め合う。

そんな男女共同参画社会に私たちの生活は近づいたでしょうか。

特集
今あらためて男女共同参画

P2~5　特集 今あらためて男女共同参画

■インタビュー　町田典子さん　株式会社クレア　代表取締役社長
朽木大祐さん　株式会社ケンウッド エンジニアリング
田所　喬さん　八王子市パパ会 Cache-PAPA（カシュ バ パ） 代表

P6　■インタビュー　渥美由喜さん　株式会社 東レ経営研究所
ダイバーシティ＆ワークライフバランス研究部長

P7　「男女が共に生きるまち八王子プラン」の進行状況を報告
男女共同参画センターの紹介
民間団体による DV 相談窓口

P8　第 22 回女と男のいきいきフォーラムのお知らせ
行政審議会等委員への女性の参画状況

特集 今あらためて男女共同参画

ますます男女共同参画が必要になってくる理由（わけ）

少子高齢社会に突入し、労働力人口の減少や現役世代への社会保障の負担増、介護に関わる人の不足などが問題となっています。

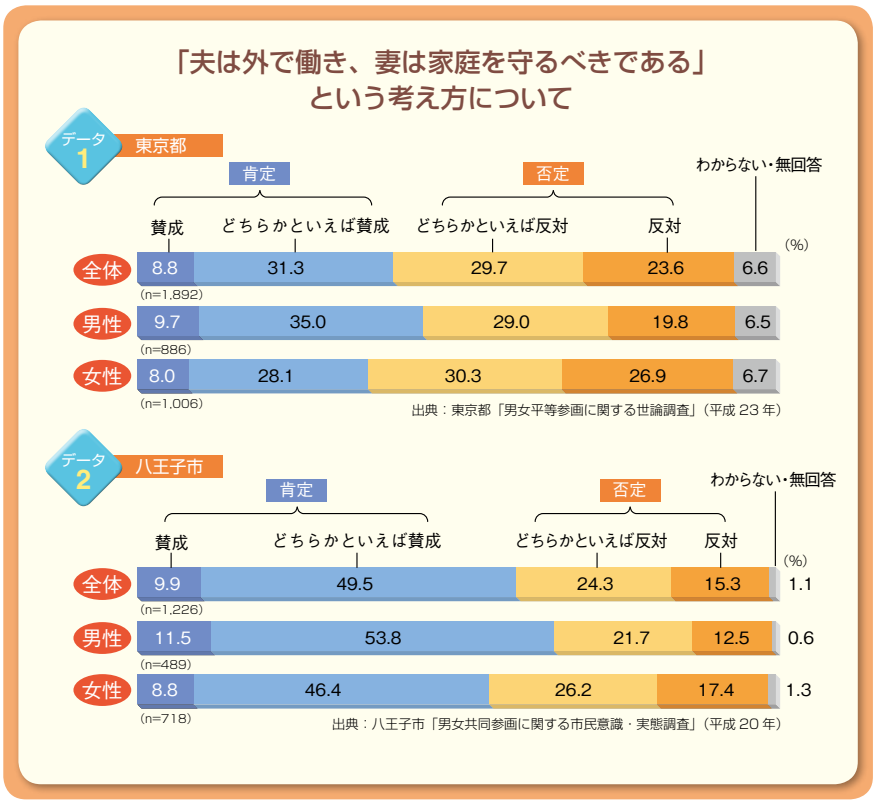
このような時代、性別を問わず仕事も子育ても介護も、みんなで関わり支え合っていくことが必要です。

そこで今、「お互いを尊重して認め合い、社会や地域などのさまざまな分野でその人の個性や能力が発揮できる社会」、「一人ひとりが多様な生き方を柔軟に選べ、それを認め合うことのできる社会」そんな『男女共同参画社会』の実現が求められているのです。

お互いの能力を発揮してイキイキ暮らす

私たちの生活の中で、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に出会うことはありませんか。これを固定的性別役割分担意識といい、長い歴史を経て現在でも多くの人の意識の中に残っているようです。

平成23年に東京都で実施した調査（データ1）では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について肯定する人が40.1%、否定する人は53.3%でした。また、八王子市で平成20年に実施した同様の調査（データ2）では、肯定する人は59.4%で、否定する人の39.6%を上回る結果となりました。どちらも男性の方が女性より「肯定」が多い結果となっているのが特徴的です。



このような意識が一因となり、「出産や育児を機に仕事を辞める女性が多い」「仕事中心の生活のために、男性が家事や育児に関わりたくても関われない」といった現状があります。

しかし、出産後も働き続けたいと望む女性もいれば、家庭や地域活動に積極的に参加したいと望む男性もいます。個々の能力や意欲が発揮できないことは、社会にとって大きな損失です。

このような「男性はこうあるべきだ、女性はこうあるべきだ」と性別で役割を決めつける意識をなくすことで、職場や家庭、地域でそれぞれの個性や能力を十分に発揮できる社会の実現が可能となるのです。

女性のキャリアを社会で活かす

少子高齢化の急速な進行により、今後労働力人口の減少が見込まれる中で、仕事における女性の活躍への期待が大きくなっています。

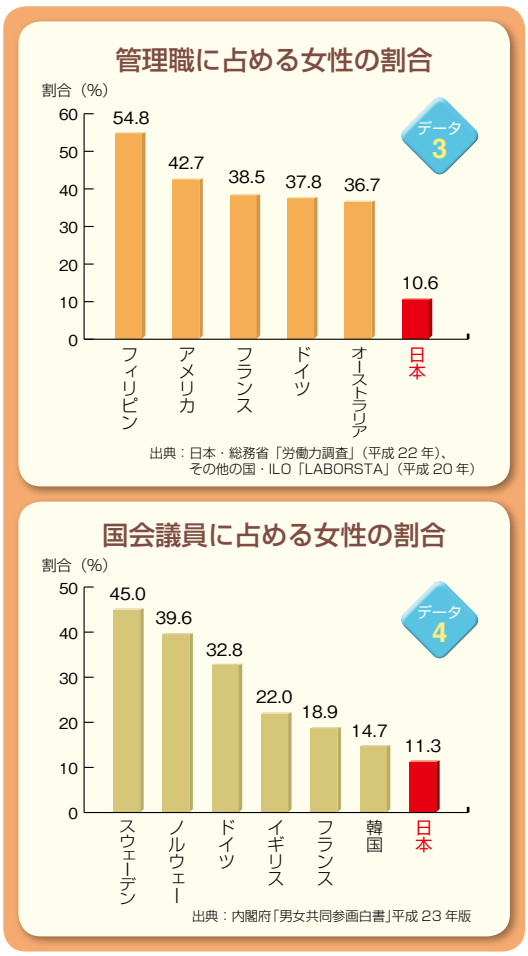
「働く女性の実情」（厚生労働省・平成23年版）によると、将来にわたり安心して暮らせる活力ある社会を実現するためには、全員参加型社会の構築が必要であるとしています。また、女性の継続就業や活用推進に向け、育児休業制度などの両立支援制度の充実に加え、育児休業復帰後も仕事へのモチベーションを維持・向上させ、キャリア形成できるよう支援していくことが重要だとしています。

女性（正社員）の職業キャリアに対する考え方の変化をみると、「できるだけ早いペースで、また、自分なりのペースで管理職に昇進したい」が子どもを持つ前後で15・4％から10・4％へと低下しています。理由として、「長時間働かないと評価を得られないから」、「育児中の社員はやりがいや責任のある仕事ができないから」などが挙げられています。

さらに、キャリアを積み重ね、管理職に至る女性の現状をみると、日本は10・6％（データ3）と諸外国と比べ低い状況にあります。また、国会議員に占める女性の割合でも、最も高いスウェーデンが45％であるのに対し、日本は11・3％となっています（データ4）。

国は「第3次男女共同参画基本計画」の重点課題として、「ポジティブ・アクション」の推進を挙げ、2020年までに社会のあらゆる分野において、女性が指導的地位に就く割合を30％とする目標値を設定しています。

企業が女性のキャリアを活かすための環境を整え、また女性も積極的な姿勢を持ち、自分の力を発揮できる社会は、多様な価値観や発想を持った柔軟な社会であり、また経済にもプラスの効果を生みだします。



Key word

ポジティブ・アクションとは？
固定的な男女の役割分担意識による慣行などから男女労働者間に差が生じている場合、積極的に女性を登用してこの差を解消しようとする取組みのこと。

市民インタビュー

仕事と社会貢献で、周りも地域もイキイキ

町田典子（まちだのりこ）さん　株式会社クレア 代表取締役社長

現在76歳。首都圏を中心に飲食店65店舗を展開、800人近くの従業員を抱える経営者。八王子商工会議所「女性経営者の会」シルクレイズの会長や、戦争の歴史を伝える一般財団法人「八月十五日の会」の理事も務める。

■仕事を続けること

クレアを創業して30年です。当時は女性が起業することなど、ほとんどない時代でした。でも、女性は積極的に社会へ出て、自分を高めるべきだと思っていました。ただ、女性は結婚や出産で、仕事を続けづらい面がありますよね。私も二人の娘の子育て中は、母に助けてもらいました。小さい頃は寂しいこともあったでしょうが、その娘も今では「いくつになっても、仕事をしていてすごい」と思ってくれているようです。

「継続は力なり」。今、子育て中の女性も、子育て期間は仕事を減らしたり周りや社会の力を借りて、なんとか仕事を続けてほしいと思っています。あきらめたらゼロになってしまいますから。

■女性の力で社会を元気に

仕事をする上で女性だから、男性だからということは、私自身あまり感じたことがありませんでした。戦争で中国から引き揚げた身ですから、生かされた命を大事にしたいと頑張ってきたのです。私が逆風に強く信念が揺るがないのは、そのせいかもしれません。「町田さんと話すと元気が出る！」と言ってくれる人もいて、うれしい限りです。

また、飲食店を経営していて感じることですが、女性が多いところには自然と人が集まるのです。それは、いろいろな話題を持っていて、コミュニケーションも図れるからでしょう。女性が育む“人とのつながり”は、これからの社会に必要な力だと思います。

仕事も家庭もどちらも大事！自分スタイルでよりよく暮らす

父親が保育園の送り迎えをしたり、子どものオムツ替えを行うなど、男性が積極的に育児に関わり、その苦労や責任を夫婦で分かち合おうとする「イクメン」の姿が多くみられるようになりました。

しかし、世界と比較すると、日本の夫の育児時間は短く（データ5）、家事関連時間全体をみても、スウェーデン、アメリカなどは3時間以上であるのに対し、日本は1時間程度です。

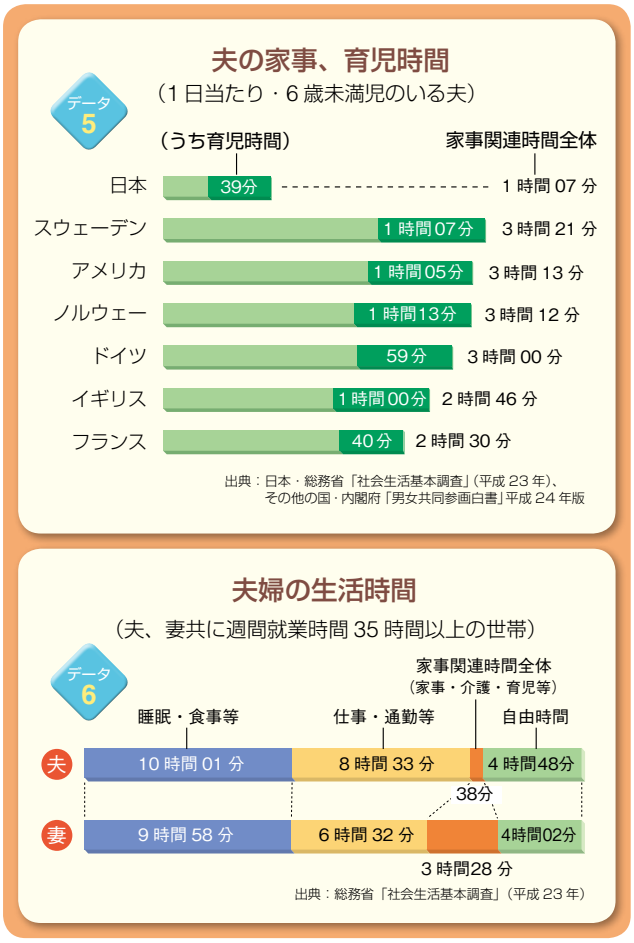
共に週35時間以上働く夫婦でも、夫の家事関連時間は妻に比べて3時間近く短くなっています（データ6）。

けれども、男性が「仕事優先」を望んでいる訳ではありません。内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（平成21年）」によると、「『仕事』と『家庭生活』を共に優先させたい」と希望する男性が33％いるのに対し、現実には21％しか実現できていません。その反面37．8％が『仕事優先』の生活を送る現状にあり、希望と現実の間に差があります。

また、高齢社会の今、女性に限らず男性も「仕事と介護の両立」が求められています。

仕事・家庭・介護・自分の余暇など、何を優先したいかは個人によって異なります。自分のワーク・ライフ・バランスを見直し、自らが望むバランスで家庭生活や地域生活を過ごすことができれば、日々の生活が充実し、豊かな暮らしにつながります。

変化するライフスタイルに合わせて、働き方も変えることができる社会の実現が必要となっているのです。



Key word

ワーク・ライフ・バランスとは？
仕事と生活の調和。誰もが仕事、家庭や地域生活、自己啓発など多様な生き方を自らが希望するバランスで実現できること。

市民インタビュー

ワーク・ライフ・バランスで広がる世界

朽木大祐（くちき だいすけ）さん　株式会社ケンウッドエンジニアリング

入社10年目の33歳。開発職ということもあり、入社当時は多かった残業も、ワーク・ライフ・バランスを支援する会社の方針と自身の工夫で、現在はほぼゼロに。時間を有効に使い、仕事に活用できる資格や語学を勉強している。

■定時で帰るコツ

入社当初は、残業や徹夜も経験しました。当時は、休みでも仕事のことが気にかかり、休めていないという感じでした。結局仕事にも集中できないという悪循環だったかもしれません。

定時で帰るためには、「時間の管理」が重要ですね。出社したら30分くらいかけて、1日のスケジュールを立てます。18：00以降に仕事をするときは、その都度、申告をしなければならないので、時間内に終わらない仕事がわかったら、上司に相談します。また、同僚と情報を共有して、仕事を抱え込まないようにもしています。

■仕事とプライベート、どちらも充実

今では会社に一歩入ったら、仕事モードに自然と切り替わります。プライベートな時間も増え、仕事に活かせる資格を3つ取得しました。あとは、英語をマスターしたいと思い、TOEICに挑戦。英会話教室にも通っています。そこで知り合った人たちとの情報交換会に参加し、地域での人脈が広がりました。

また、語学力を活かすためラオスへひとり旅もしました。そこでは、アジアの経済情勢などを肌で感じ、充実したプライベートな時間を過ごすことが仕事にも活きるということを実感しました。今後は仕事で使えるくらいに英語力を磨き、ステップアップしていきたいです。

地域でも活躍する

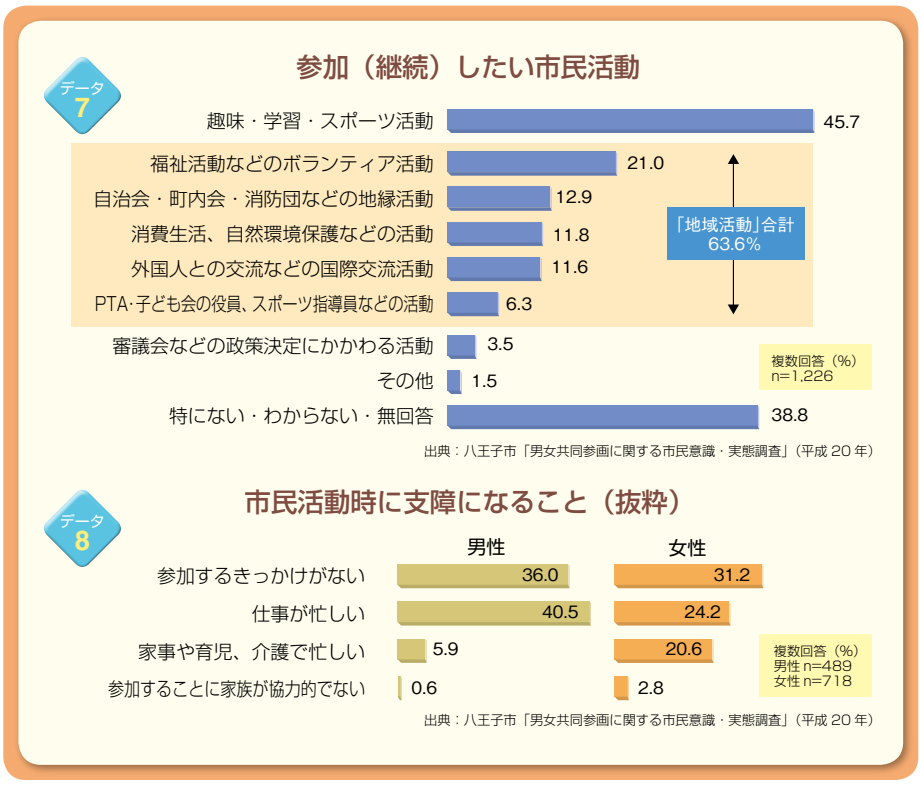
東日本大震災を経験して、地域のつながりの大切さを再認識した人も多いのではないでしょうか。普段から趣味やボランティア、PTAや自治会などを通して地域と関わりを持つことが、なにかあったときの安心感につながります。

八王子市の調査（データ7）をみると、参加（継続）したい市民活動として「趣味・学習・スポーツ活動」が45.7％と最も多く、次いで「福祉活動などのボランティア活動」、「自治会・町内会・消防団などの地縁活動」などの地域に関わる活動が合計で63.6％となり、市民活動への参加意欲の高さがみてとれます。

一方、「市民活動時に支障になること」（データ8）をみると、男性は「仕事が忙しい」、「参加するきっかけがない」が主な回答で、女性はそれに加えて「家事や育児、介護で忙しい」という回答も見受けられ、ここでも固定的性別役割分担意識がうかがえます。

多様な立場の人が地域活動に参加することで、地域が活性化し、安全・安心にもつながります。また、仕事の経験を活動に活かし、そこで得たネットワークを仕事にも活かすことで、仕事も地域活動も、どちらも貴重な経験となります。

お互いがそれぞれの立場を尊重し、ワーク・ライフ・バランスを進めて、男女が社会の中で対等に生きることができる。そんな男女共同参画社会が、今、すべての人にとって大切なことなのです。



地域参加を応援しています

団塊世代等地域参加支援デスク
地域活動への参加を支援する総合的な相談窓口
（☎ 042-627-0802）

市民活動支援センター
市民活動を支援するための施設
（☎ 042-646-1577）

市民インタビュー

パパたちの活動が地域の安心につながる

田所（たどころ） 喬（たかし） さん　八王子市パパ会 Cache-PAPA（カシュパパ） 代表

34歳、会社員、1児の父親。週末はCache-PAPAの代表として地域で活動をしている。これまでに八王子市内5か所に、それぞれパパ会を立ち上げて、男性の育児を応援している。

■父親となって成長する

出張が多いのですが、それ以外の日は定時で仕事を終え帰宅、土曜日は妻の自由時間をつくるため娘と出かけます。僕の中で、育児の優先順位が高いので、自然とそうなっています。でも出産直後は父親になったという実感がありませんでした。実は妻が退院した次の日に出張に行ったくらいです。

実感がわいてきたのは、妻と参加した「親子つどいの広場」で会った人たちと育児の話をするようになってからです。あとは、妻が僕の育児のやり方に口を出さず、思い切ってまかせてくれたことでしょうか。ときには「ママがいい」なんて泣かれましたが、そこが父親として成長するチャンスと考えました。また、育児を共有することで自然と妻との会話も増えました。

■育児を通して地域とつながる

もともとは「父親がもっと育児に関わろう」というテーマで、パパ会を立ち上げましたが、活動を通してたくさんの友人ができました。それは、いざというときに助け合えるという安心感にもつながっています。男性は地域で仕事以外のつながりを持つ機会が少ないので、パパ会はそんな男性の居場所づくりにもなっています。娘が20歳になっても、小さな子どもがいるパパたちと関わっていきたいですね。

インタビュー　今と未来のためにできること

男女共同参画のメリットを自身の育児、介護、看護経験をふまえて、実感しているという渥美由喜さん。男女共同参画社会の実現をさらに推し進めるために、今、私たちに何ができるかを伺いました。

男女共同参画社会の実現は、自らの豊かさに直結します

男女共同参画社会は男性にとってもメリットの多い社会

男女共同参画社会の実現には、女性の活躍が不可欠です。私は、女性の活躍には３つの段階があると思っています。第１段階は職域の拡大、第２段階は女性管理職の増加、そして、第３段階はワーク・ライフ・バランスの実現です。

ここ数年で職域は拡大し、さまざまな分野へ女性が進出しました。一方で女性管理職の数は、国際的にみても少なく、現在、責任ある地位に立つ女性からは、「キャリアのために子どもを持つことをあきらめた」という話も聞かれます。女性管理職は男性の３倍頑張るべきという風潮も根強く残っているようです。

いまだ妊娠・出産・育児のために、６割の女性が離職し、子どもに手がかからなくなってから再び働き始めています。このような女性独特の就業状況を、年齢別のグラフにするとＭ字を描くことから、Ｍ字カーブと呼びます。このＭ字カーブの解消のためには、企業や行政が育児と仕事の両立を支援したり、一人ひとりが固定的性別役割分担意識を見直すこともまだまだ必要でしょう。

また、男女共同参画が進むことで、男性は昇進昇格の機会を女性に奪われるというようなイメージがあるかもしれません。けれども、女性の活躍は日本経済全体の活性化につながります。そうなれば、男性にも働きやすい社会になるのです。

一人三役時代がくる

これからの人口減少社会では、男女に関わらず職業人、家庭人、地域人と、三役をこなすことが必要になるでしょう。家庭人という意味では、私自身、難病の息子の看護と認知症の父親の介護をしています。育児と介護を両方経験することで、生と死を見つめることができ「命のバトンリレー」を身近で実感しています。大変ではありますが「ライフ」のキャリアを積んでいるところだと思っています。今、介護で離職する男性が女性の倍の勢いで増えています。男性の子育ては、若い人を中心に浸透してきた印象がありますが、介護も男性にとって、決して他人ごとではありません。

また、地域人として活躍することはとても大切です。私は独身時代から、週末に地域への恩返しの意味を込めて子ども会の活動に参加しました。今までに１９００人くらいの子どもと接してきたことが、自分のささやかな地域貢献活動です。八王子市は市民活動が盛んで、地域に参画するには非常によい環境にあります。市民ネットワーク力を活かし、市民力で人口減少に立ち向かうことが非常に重要です。

これからは女性も男性もさまざまなものを背負って生きていく時代。男女共同参画社会の実現こそが、すべての人にとって豊かでイキイキとした暮らしにつながるでしょう。

Profile

渥美由喜（あつみなおき）さん

株式会社東レ経営研究所
ダイバーシティ＆ワークライフバランス研究部長

企業のダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスに関する研究やコンサルタントの業務をこなしながら、内閣府「男女共同参画会議」や厚生労働省「イクメンプロジェクト」など、多数の公職を歴任する。自身も２児の父親。育児と父親の介護に関わり、ワーク・ライフ・バランスを自ら実践している。

「男女が共に生きるまち八王子プラン」の進行状況を報告

市は「男女が共に生きるまち八王子プラン（第２次）」を基に、男女共同参画社会実現のための施策を推進しています。このほど、平成 23 年度の進行状況を評価した報告書をまとめました。評価結果は、次年度以降の評価や次期行動計画などに反映させていきます。報告書は、市役所１階市政資料室、男女共同参画センター、各事務所・市民センター・図書館、市のホームページなどでご覧になれます。

また、この報告書に対するご意見を随時お受けしています。ご意見は直接、電話、ファックス、またはＥメールで男女共同参画センターへ。

男女共同参画センターの紹介

男女共同参画センターでは、各種講座の開催、女性のための相談、学習支援などのための無料託児サービス（ほっとタイムサービス）などを行っています。

◆**開館時間**
月～土曜日／９時～19時
日曜日、祝・休日／９時～17時

◆**休館日**
年末年始（12月29日～１月３日）、毎月第１火曜日（館内点検日）

☆ほっとタイムサービス

学習支援・求職支援のための無料託児サービスです。

◆**利用できる方**
満１歳～６歳までの就学前のお子さんの保護者で
○クリエイトホール内の生涯学習センター図書館・生涯学習センター・消費生活センター・男女共同参画センターを利用する方
○八王子しごと情報館を利用する方

◆**利用時間**
日・月・水・金・土曜日／９時～12時
火・木曜日／13時～17時

◆**利用方法**
男女共同参画センターで登録した後、利用日の２日前までに電話または直接窓口で予約をしてください。

☆女性のための相談

夫婦・家族間の不和・もめ事の悩み、生き方や人間関係、交際相手との悩みなど、女性の人権に関わることや法的な相談に、専門の女性相談員が対応します。

相談
専用電話
☎ 042-648-2234

電話相談（年末年始を除く）	月～土曜日	午前９時～午後７時
	日曜日、祝・休日	午前９時～午後５時
相　談（要予約）	木曜日	午後１時～午後４時
カウンセリング（要予約）	水・土曜日	午前９時～正午
	第４月曜日	午後１時～午後４時
	第２・３金曜日	午後４時～午後７時
弁 護 士（要予約）	第４土曜日	午後２時～午後５時

民間団体によるDV相談窓口

配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？

団体名	形式・費用	日時	連絡先
ＤＶホットライン八王子	電話相談・無料（女性専用）	月曜日 午前９時～正午	☎ 042-648-9580
全国共通ＤＶホットライン	電話相談・無料（女性専用）	月～土曜日 午前 10 時～午後３時	☎ 0120-956-080
いっぽの会	女性同士の語り合い・１回 300 円	第１・第３金曜日 午後１時半～午後３時半	☎ 090-6338-4391 090-7408-1372
れんこんの会	女性同士の語り合い・無料	第２土曜日 午後２時～４時 第４木曜日 午前 10 時～正午	☎ 080-5039-9374

第22回　女と男のいきいきフォーラム八王子

未来につながる、これからの生き方

平成25年2月23日(土)～24(日)

会場：八王子市クリエイトホール（八王子市東町5-6）

入場無料　託児あり

■1歳から就学前のお子さん
■要予約(午前/午後)各15名まで

2/23(土) 講演会　手話通訳あり

「笑顔が生まれる介護術」

～誰にでもおとずれる介護のために～

講師/**江村利雄**（元大阪府高槻市長）
時間/14：00～16：00
会場/5階ホール（定員170名）

1984年に高槻市長に就任。1999年4月、4期目途中で「妻の介護」を理由に辞任。その後、自宅でユニークな介護を展開し、寝たきり・認知症だった妻をジョークが言えるまでに回復させた。
しかし、2000年11月、妻はショートステイ先の老健施設で誤えん“事故”に遭い、以後意識不明に。
妻を自宅に引き取り、看護する日々を送っていたが、2006年3月に他界。現在は自身の介護経験を基に、各地で講演をしている。

2/23(土) 分科会

「パパはイクメン ママはドクター」

～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～

講師/徳倉康之（ファザーリング・ジャパン事務局長）
時間/10：00～12：00
会場/11階 第7学習室
（定員30名・概ね20～40代の方）

今日から使える！「体が変わり心が変わるウォーキングセラピー」

講師/山田十望子（NPO法人日本ウォーキングセラピー協会認定講師）
時間/10：00～12：00
会場/6階 レクリエーション室
（定員20名・概ね30～50代の女性）

展示

2/23(土)～24(日)　申し込み不要

ルワンダ現代アート展示会

時間/10：00～16：00
会場/5階 展示室

団体企画

男の手作りお菓子をどうぞ（クッキーなどの焼き菓子を販売）　2/23(土)

時間/11：00～14：30
会場/9階 料理講習室
企画/男の手料理
申し込み不要

パソコンで作る、My カレンダー・ハガキ　2/23(土)

時間/①10：30～11：30
②12：30～13：30
会場/5階 展示室（定員各8名）
企画/PC女性さろん　費用/100円

メイクセラピーボランティア講習会　2/24(日)

対象/女性
時間/①10：00～11：30
②12：30～14：00
③14：30～16：00
会場/5階 展示室（定員各8名）
企画/ネバーランド　費用/300円

「投げっこ、飛ばしっこで力比べ」　2/24(日)

対象/4歳～小学生の子とその父親
時間/10：00～12：00
会場/11階 第7学習室（定員15組）
企画/レクボラ№1

「知らないではすまされない！子育て中の社会保険とお金のルール」　2/24(日)

講師/櫻井三樹子（特定社会保険労務士）
太矢香苗（ファイナンシャルプランナー）
時間/10：00～12：00
会場/11階 第6学習室（定員20名）
企画/多摩らいふサポート

「私が選ぶ結婚とは!?」　2/24(日)

講師/江原由美子
（公立大学法人首都大学東京 副学長）
時間/14：00～16：00
会場/10階 第2学習室（定員50名）
企画/八王子手をつなぐ女性の会

2/23(土)～24(日)　企画展示

申し込み不要

時間/10：00～16：00　会場/5階 展示室

私はワーク・ライフ・バランス派！
企画/八王子手をつなぐ女性の会

八王子女性史サークルの活動報告
企画/八王子女性史サークル

お申し込み・お問い合わせは

講演会、分科会、団体企画、託児はお申し込みが必要です

男女共同参画センターまで
TEL 042-648-2230　FAX 042-644-3910
1月4日(金)から申し込み先着順で受付開始！

八王子市の行政審議会等委員への女性の参画状況

審議会とは、国や地方公共団体が重要な施策を進めるにあたって有識者等から意見を求めるため、法令・条例等に基づき設置する機関です。

市の審議会等委員への23年度女性の参画率は28.6％で22年度と比べ下がっています。

残念ながら審議会等では、いまだに女性委員が一人もいない委員会があります。

女性の声を市政に活かすには、女性の参画が必要です。今後も審議会等へ女性委員の登用についての働きかけを行うなど、女性参画の推進に向け、積極的に取組んでいきます。

行政審議会等委員への女性の参画状況推移

区分	21年	割合	22年	割合	23年	割合
審議会等数	98	86.7％	95	82.1％	101	79.2％
うち女性の委員がいる審議会等数	85		78		80	
全委員数（人）	1,525	33.4％	1,473	33.7％	1,779	28.6％
うち女性委員数（人）	509		497		508	

■ご意見・ご感想は男女共同参画センターまでお寄せください
TEL 042-648-2230　FAX 042-644-3910
メール b050900@city.hachioji.tokyo.jp
■発行日　平成25年1月1日　■編集　男女共同参画都市 八王子市 市民活動推進部男女共同参画課
〒192-0082 八王子市東町5-6 クリエイトホール8F
HP　http://www.city.hachioji.tokyo.jp/33852/danjokyodo/index.html